

平成28年度ボランティア表彰等「本部会長表彰」の受賞にあたって

平成28年度「第26回電友会ボランティア活動賞」ならびに「第2回電友会活動功労賞」の表彰式が、平成28年11月25日「KKRホテル東京」において開催され、電友会鈴木会長から表彰状と副賞が、NTT鶴浦社長から記念品が授与されました。

「電友会ボランティア活動賞」の受賞者は35名(関西4名)、「電友会活動功労賞」の受賞者は12名(関西3名)であり、滋賀支部から「電友会ボランティア活動賞」に香水敏夫さんが、「電友会活動功労賞」には薬師川烈さんが受賞されましたのでその「活動状況と感想」を掲載いたしました。



○ 香水敏夫さん 「郷土史研究と地域ボランティア活動」

●活動状況

私は、平成3年にNTTを、同9年にドコモ関西を退職した。現役中は、長い間の単身赴任や長距離通勤のため、地域行事等への参加ができなかった。このため退職を機に「地域への恩返し」として、明治41年から居住地の新旧集落間を二分する「神社問題」に鋭意取り組み、平成11年6月、全区民の賛意を得て、同問題の解決と渦中の神社社殿の修復に取り組んだ。この間、集落の成り立ちから移住集落(出郷)の形成、神社社殿の成立過程と明治39年の神社社会祀令に伴う紛争原因等の歴史を調べた。そして当時、新・旧集落間で締結された協定書に関する法律的課題についても、京都の弁護士事務所まで足を運びさらに対立する両者との話し合いと説得を重ねた。これらの努力が区民の胸襟を開き、感情的問題を残すことなく解決することができた。

これらの経験から、地域の長老や区役員の間で、区誌(字誌)編纂の機運が盛り上がった。

同年7月、湖北町丁野区では、「丁野区誌編纂委員会」を発足させ、神社問題を解決に導いた功績を評価され委員長に就任した。そのため、一切の仕事をやめて、郷土史の学習・研究、区誌の執筆・編纂に没頭した。平成17年12月、B5版400ページを超える「しが湖北丁野誌燦」を刊行して各方面から賞賛された。以後、区誌には掲載できなかった郷土史を伝えつつ、研究を深めるため、「三盛亀甲郷土史研究会」を設立し、毎月1回の同会開催は本年6月で93回を数える。その成果として歴史的由緒地に石碑5基の建立や成果発表会を行うなど歴史・文化の継承に努めている。

また、地元小谷小学校からの依頼により、歴史・文化ボランティア「亀花クラブ」を結成し、同21年に副読本「浅井氏三代と小谷城」、同23年には「地域のほこりが息づく道徳」を作成したほか、毎年4月に教壇に立つなどしている。

さらに、長浜城歴史博物館友の会・小谷城戦国歴史資料館友の会・奥びわこボランティアガイド協会に属し、「小谷城址ガイドマニュアル」の作成とガイドの養成、自らもガイドや講演活動を行っている。

なお、共著「浅井長政のすべて・浅井三姉妹の真実」(新人物往来社刊)に「小谷落城」を担当したほか、二つの季刊同人誌により、地域の歴史・文化を全国に発信している。今は「浅井長政、謀反の謎(仮称)」を研究・執筆中である。

●感想

学ぶことが、神社仏閣、ひな人形、地域史など多義にわたりますが、好きで興味を持てることはどんどん掘り下げ、お客様から頂いた質問はガイドのヒントとして捉え次回ガイドに役立てております。

お客様をご案内する際には、盛り上げるところや淡々と説明するところなど、抑揚をつけることによって、印象に残るよう工夫しております。明るく・元気に・楽しく活動が行えるよう定期的な“打ち合わせ会”

等を開催し、課題を共有し、一人ひとりが自主的に参加できるよう取り組んでいきたいと考えております。

知り得たことを活かし、訪れた観光客の役に立てるよう、まず自分が楽しく・この町を誇りに思える観光ボランティアを目指し活動を続けてまいります。これまでお世話になってきたNTTで学んだことを活かしながら仲間と共に頑張ります。

○ 薬師川 烈さん「みんなとともにー諸施策の展開による組織と活動の活性化をめざしてー」

●活動状況

平成16年6月、再就職を含む全ての勤めを終えた直後から支部役員としてあっという間に12年が過ぎました。

立場として、会員数の減少によるOB会組織の衰退傾向に何としても歯止めをかけることが最大の使命と考え、支部役員のみならず共に以下の取り組みを行ってきました。

1、会員の維持・増強

- ・減耗補充率100%（死亡・退会による減少分を新規会員で取り戻す）を最低目標に、部門別プロジェクトに加え「同級生・友達の友達勧誘作戦」等により、4年連続で目標を達成。
- ・会員の寿賀やお見舞いに際しての“お便り”の発信

2、会員サービスの向上

- ・「電友会員証」提示により特別割引されるホテル・飲食店等を開拓・拡大（6件）
- ・「支部のホームページ」の開設と会員のために資する情報の発信（平成19年～）
- ・会員の生活や悩みの解決に役立つ「セミナー」の企画

3、サークル活動の活性化

- ・会員のニーズに応えた新サークルの創設および活動回数と参加人数に比例したインセンティブの働く「サークル活動支援金」の算出方程式の設定
- ・地域幹事と地元会員自らの企画・運営による「史跡探訪」活動

4、会員の出役によるNTT支援活動

- ・無人局敷地内の除草作業（18ビル）
- ・地域イベントへの参加や踊りの着付け

5、“ふれ愛”活動の体制づくり

会員による会員のための支援体制の仕組みづくり（平成27年6月）

●感想

現在のほとんどの会員は、長く勤めた会社への愛社精神と仲間意識のもとに加入いただいていたところですが、最近卒業された方については、今日的な時代背景の変化や価値観の多様化の中にあってもなかなか入会いただけないのが現状であります。多くの先輩・同僚・後輩とともに過ごしてきた会社の仲間として、OB会組織としての「電友会」を通して再び集い、その絆を大切に、励ましあって、生き甲斐を共有する場としつつ、今後益々進んでいく高齢化社会の中で、仲間が次第に孤立化・孤独化していくのをみんなが支え合い、助け合っていくためにも一人でも多くの仲間を増やしていきたいものであり、電友会の価値を高めることが喫緊の課題であります。私も生涯このための活動を続けていきたいと考えております。